

もり い やちよう ちよう
森に生きる野鳥と蝶

森に生きる野鳥は、夏は昆虫などを食べて生きていますが、虫の少ない冬は、木の実も積極的に食べます。チョウの幼虫は、たいてい決まった植物を食べて育ちます。このように多くの小動物は森の植物に依存して生きています。

木の实や花の蜜にくる野鳥



野鳥と樹木



ネズミモチ
モクセイ科

秋にネズミの糞のような黒い実をつけ、ヒヨドリなどが食べます。初夏に咲く、白い花にはハナムグリやチョウが吸蜜にきます。



ヒサカキ
ツバキ科

秋から冬に黒く熟す実は、人が口に含まんでも、ほんのり甘く、多くの野鳥が好みます。雑木林の低木を代表する木です。



ヤブツバキ
ツバキ科

早春につく赤い花の蜜は甘く、昔の子どもも吸って遊びました。メジロやヒヨドリなどが好んでやってきます。



ヤマザクラ
バラ科

夏に熟す貴重な木の実は、主にキジバトやホオジロなどが食べにきます。メジロはこの花の蜜も吸うようです。

蝶と樹木



クスノキ
クスノキ科

虫をよせつけない虫除けの樟脳をもつクスノキですが、唯一アオスジアゲハの幼虫だけは、この葉を食べて育ちます。実はキジバトなども食べます。



ミカン
ミカン科

ミカンの葉を食べるチョウは、この他、アゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハなど様々です。チョウたちは初夏に咲く花にも吸蜜にきます。



エノキ
ニレ科

大木になるエノキは、国蝶オオムラサキの食樹でもあり、幼虫どうしはととても似ています。秋にオレンジ色に熟す実は甘く鳥たちにも人気です。



アラカシ
ブナ科

シジミチョウの中でもアラカシを好むようで関西で多く見られるようです。晩秋に熟すどんぐりは、ネズミ等の食糧となります。